

## 平成 24 年度第 1 回広島県公立大学法人評価委員会議事要旨

- 1 日 時 平成 24 年 7 月 9 日 (月) 15:00~17:00
- 2 場 所 広島県庁南館 選挙管理委員会委員室
- 3 出席委員 古賀委員長代理, 西川委員, 福田委員
- 4 議 題 (1) 平成 23 年度業務実績報告及び財務諸表について  
(2) 平成 23 年度業務実績評価素案について  
(3) 平成 23 年度財務諸表及び利益処分に関する意見について
- 5 担当部署 広島県環境県民局学事課大学管理グループ  
TEL (082) 228-2111 (内線 2752)

### 6 会議の内容

#### (1) 平成 23 年度業務実績報告及び財務諸表について

(i) 広島県公立大学法人県立広島大学 (以下「県大」という。) 理事長から平成 23 年度の業務実績について、次のとおり報告があった。

- ① 退学率が 1% を切る程度と非常に低く、志願者倍率も 3 倍はある。
- ② 科学研究費の獲得は、中四国・九州・沖縄の大学の中で、連続 5 年トップになっている。教員の申請率も 92.1% と高い。
- ③ 研究力のある教員のもとで、ほとんどの学生が、単独で論文を仕上げ、発表することで、学生の創造力やディベート力が養成されている。
- ④ 学生 1 名がビジネスプランコンテストで受賞したほか、4 学部すべてにおいて、文科省が優れた教育取組を選定する GP に採択されている。
- ⑤ 国際交流について、今年は西南交通大学との協定を結ぶことに成功した。国際ボランティアランキングでは全国 750 大学中 54 位であり、もう少し上を目指したい。
- ⑥ 県内の美術館等 7 施設のキャンパスメンバーズになり、学生・教職員が無料で利用できる体制を整えている。
- ⑦ 広島の、中堅・中小企業を含めた多くの優秀な企業に、学生を受け入れてもらい、就職率がかなり高くなっている。(平成 23 年度就職率 97.6%)
- ⑧ 地域貢献ランキングは、平成 22 年度の 11 位に比べると、平成 23 年度は 23 位と落ちたが、今後努力を重ねていく。

#### 【質疑応答】(委員質問⇒県大回答)

・幅広い取組を行うことで、大学の平均点を良くすることも大切だが、県立広島大学を特徴づける上で特に意識している点は何か。

⇒地域貢献が中心となる。しかし、地域貢献を行うにしても、研究力がなければ十分な貢献ができない。今までは基礎体力をつけてきており、実力はついている。これからは、国際化を進める中で地域貢献をしようと考えている。

・ある新聞記事に、英語で授業をすることがこれから日本の大学にも求められてくるとあったが、これについてどう思うか。

⇒英語の授業を導入する必要があるとは考えている。現在、大学間連携において英語教育を一緒に行

おうという動きが出ている。

・県立大学には複数の学部・キャンパスがあるが、他学部・キャンパスの単位をとることの流動性についてはどうなっているのか。

⇒他学部・キャンパスの単位を取れるように改善してきているが、やはりまだ壁があると思う。更なる改善に努めている。

・中国の大学との連携が増えているようだが、その狙いを教えてほしい。

また、交通大学とはどのようなものか。

⇒県大が新たに協定を結んだ西南交通大学は、中国の国家重点大学の1つで、理工系の総合大学である。既に協定を結んでいる西安交通大学をはじめ、中国の国家重点大学には、人口の多い中国のなかでも優秀な人材が集まっており、彼らを広島に連れてきたいと思っている。

(ii) 県大総務担当部長から平成23年度財務諸表について、貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書及び行政サービス実施コスト計算書、利益処分に関する書類(案)について内容説明があった。

【質疑応答】(委員質問⇒県大回答)

・損益計算書において、教育経費と研究経費が減っている一方、教育研究支援経費が増えている理由を教えてほしい。

⇒コンピューターにより英語教育の自習ができるCALLシステムや、奨学金・奨励金等による国際交流推進を重点事業として取り組んだためである。

・当期総利益2億円余の使い道について、何か考えはあるのか。

⇒国際化のための優秀な人材確保や、留学支援のために活用したいと考えている。

・収益を増やすための方法として、例えば県立大学のOBから寄付金などは検討されているのか。

⇒多少はあるが、いまのところ多くはない。集める際には、基金方式等で使い道を明らかにしなくてはならないだろう。

・社会人学生を増やそうとしたときに、社会人学生に対しての配慮等が行われているのか。

⇒土曜日や夜間に開講するなど、社会人が履修しやすい体制にはなっているが、必ずしも社会人が多く受けているわけではない。また、今後進んでいく大学連携で、各個別大学へというよりも広島の大学へ学生を呼び込めることに期待している。

(2) 平成23年度業務実績評価素案について

事務局から、資料1により説明があり、全体評価としては「年度計画は順調に実施された」と判断されるとの素案が示された。委員からは次のとおり意見が出された。

## 【委員意見】

- ・目標を設定する際、後でその目標を自己点検するため、評価が甘くならないよう、背伸びすれば届くくらいの目標値を意識すべきである。
- ・庄原キャンパスの牧草地については、今後の具体的な計画を早めに立てることを期待する。

### (3) 平成23年度財務諸表及び利益処分に関する意見について

事務局から、資料2により、県大が提出した財務諸表について事務局が行った確認内容の説明があった。合規性の遵守の観点及び表示の適正性の観点から財務諸表の確認を行い、適正な内容であったとの報告がなされた。委員からは特に異議はなかった。

## 7 会議の資料名一覧

### 【配付資料】

資料1 平成23事業年度公立大学法人県立広島大学業務の実績に関する評価結果（素案）

資料2 財務諸表の事務局における確認について

資料3 剰余金のうち中期計画に定める用途に充てられる額の承認申請書

参考資料1 平成23年度業務の実績に関する報告書

参考資料2 平成23年度業務実績報告附属資料

参考資料3 平成23年度財務諸表

参考資料4 監事・会計監査法人の監査報告書

参考資料5 目的積立金の活用状況について